

「マリ国境ODAサイト視察プレスツアーを行いました」

11月21日から23日にかけて、現地メディア向けに、マリ国境ODAサイト視察プレスツアーを実施し、サヘルTVの記者1名とカメラマン1名が参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やすとともに、モーリタニアの政府関係者、知識層及びモーリタニア国民への情報発信を強化するものです。

プレス一行は、モーリタニア最東南端のバシクヌ郡バシクヌ市ンベラ難民キャンプ及びファサラ市を訪れ、平成26年度補正予算「サヘル地域の安全強化」、平成27年度補正予算「難民キャンプのマリ難民及び食料・栄養危機に瀕するモーリタニア人に対する生命保護のための食糧支援」及び「ンベラ難民キャンプのマリ難民保護及び支援」事業の視察を行いました。

マリとの国境から50km内陸にあるンベラ難民キャンプで生活する難民の多くは、2012年にマリ北部情勢の悪化を受けてモーリタニアに避難してきたマリ人です。2015年6月にマリ和平合意が署名されたこともあり、2016年1月から10月現在までに、ンベラ難民キャンプから約1,800名の難民が自主帰国したものの、マリ北部の情勢が依然として危険な状況であることもあり、2016年10月現在、いまだに約42,000名の難民がキャンプでの生活を余儀なくされています。



バシクヌ郡位置



ンベラ難民キャンプ全景

「マリ難民の自活能力を培う支援」

1日目は、平成27年度補正予算「ンベラ難民キャンプのマリ難民保護及び

支援」(実施機関：国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)) 事業を視察しました。

(1) 難民キャンプ代表との懇談で、清水大使からは、冒頭、日本国民の税金がきちんと有効に使われていることをこの目でしっかり確かめるとともに、現場の生の声を聞くために来訪した、と視察目的を説明しました。これに対し、各部族・集団の代表から、仏語、アラビア語、タマシェク語などの複数言語によって、日本の支援に対する謝意が口々に寄せられました。一方で、難民からは、依然として直面する食料不足、高等教育進学のための機会不足をはじめとする数々の深刻な課題に対するさらなる支援が求められ、参加プレスも白熱した意見表明の様子を熱心にカメラに収めていました。



窮状を訴える難民



視察目的を語る大使

(2) 次に、雇用創出活動支援によって始められたキャンプ内貴金属工房を訪問し、ネックレス、指輪などの銀製品を作製して都市圏住民に販売することで収入を得ている難民の様子取材しました。

(3) さらに、同支援によりキャンプ内に設置された脆弱層の女性が働く農業区画では、限られた水資源の問題に頭を悩まされつつも、比較的肥沃な土壌を活かし、女性たちがいきいきと野菜を栽培している姿取材しました。育てられた野菜はキャンプ内難民の食用となるほか、一部は外部に販売され、農業従事者の貴重な収入となっています。



貴金属工房



農業区画

「マリ難民と受入れ住民の命を繋ぐ食料・栄養支援」

2日目午前は、平成27年度補正予算「難民キャンプのマリ難民及び食料・栄養危機に瀕するモーリタニア人に対する生命保護のための食料支援」（実施機関：世界食糧計画（WFP））、平成27年度補正予算「ンベラ難民キャンプのマリ難民保護及び支援」（実施機関：国連難民高等弁務官事務所（UNHCR））事業を視察しました。両事業は、ンベラ難民キャンプ内の約42,000名の難民及び約11,300名の受入住民に対して食料支援を実施するものです。

（1）難民キャンプ内配給所では、米、豆類、塩、食用油等の食料と現金が難民に支給される様子を確認しました。配給は、配給漏れや配給超過を防ぐため、難民の個人番号が記載されたカードに基づきバーコード管理されています。また、配給量に間違いがないか複数の場所において慎重に確認されています。食料配給に携わる難民代表からは、プレスの前で、「配給は日々の生活の支えであり、日本の支援に心から感謝している」等の声が寄せられました。



バーコード管理による食料配給



食料配給の様子

(2) 難民キャンプ内には、6か月から5歳未満の幼児、妊婦及び子育てをする母親たちを対象とした栄養失調対策センターが6つ存在します。同センターには、子どもたちの栄養状態を知るための体重計や身長測定器等の器材が整備されているほか、栄養失調を防ぐためにピーナッツ、砂糖等が配給されるとともに、センター担当員が子どもの栄養に関するアドバイスを母親たちに行っています。プレス一行はセンターを訪れた母親たちを熱心に取材していました。



体重測定

(3) さらに、一行は日本の支援により給食プログラムが実施されている難民キャンプ内6つの小学校のうちの1校を訪れました。本支援は子どもたちの栄養状態を守るだけでなく、子どもたちを教育機関になかなか送らない家族に対して、「学校に来れば食事ができる」ことをインセンティブとし、子どもたちに学ぶ場を確保する側面を有しています。子どもたちが給食を楽しむ様子が取材されるとともに、「通常、女子児童の通学率は男子児童に比して低いが、この難民キャンプでの女子児童の通学率は比較的高い。母国マリですら学びの場がなかった子供たちがいきいきと通学しており、このような場を与えてくれた日本に感謝している」等の現場の声がプレスに伝えられました。



給食を楽しむ子どもたち



教室風景

「モーリタニアの国境管理能力を強化し「テロとの闘い」に貢献」

2日目午後には、難民キャンプから車で1時間ほど離れたドウエンカラ村に新たに設置されたファサラ・ネレ国境ポスト開所式が開催されました。同国境ポストは、平成26年度補正予算「サヘル地域の安全強化」（実施機関：国際移住機関（IOM））事業の一環として、モーリタニアの国境管理能力を強化することを目的として設置されたものです。

式典には、ホード・エッシェルギ州知事が参列したほか、地方分権・内務省領土局総局長、国家公安庁同州地域局長等多数の政府関係者が出席する等、モーリタニア政府のテロ・治安対策を重視する姿勢が見てとれました。スピーチにおいて政府関係者からは、不法移民・組織的犯罪及びテロを防ぐ上で戦略的要地に建てられた同国境管理ポストは「テロとの闘い」を掲げるアブデル・アジズ大統領の政策に資するものであるとの賞賛の声が寄せられました。さらに、ファサラ・ネレ市長からは、電気敷設・水供給の整備を実施した同国境管理ポストは、モーリタニアの国境管理能力を強化するばかりでなく、地方の基本的需要を満たす支援であるとの謝意が寄せられましたが、到着時の住民の熱烈的な歓迎ぶりにもその思いが現れていました。プレス一行は、式典で披露された地元若者による過激化防止啓蒙のための寸劇のほか、国境ポスト内を撮影し、関係者に対し熱心に取材を行いました。



一行を歌で歓迎する子どもたち



国境管理ポスト全景

「途絶えぬ難民流入」

3日目は、難民登録所を視察しました。同登録所は、難民がキャンプに到着した際の最初の窓口となります。同登録所ではモーリタニア政府とUNHCR職員の協力により、氏名、年齢、出身地域、職業を含めた難民の登録がなされ、難民の登録番号や居住地域が決定されます。一行訪問時にも、マリのレレから逃れてきた母子が登録手続きを行っていました。同登録所担当者からは、2016年8月から10月初頭の期間だけで新たに約400名が難民としてキャンプに到着した旨言及があり、各国・各国際機関が援助疲れする一方で、難民キャンプには日々新たな難民が押し寄せているため、難民キャンプは基本的物資不足の危機にあるとの説明がありました。



次に一行は、株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ）が実施している[全商品リサイクル活動](#)の取材を行いました。服の価値を最後まで最大限に活かすことも重要な責務という信念の下、2007年から同社はUNHCRとともに、世界中の難民や避難民、災害被災者、妊産婦や母子などへの支援として、服を届けており、ンベラ難民キャンプもその配布対象地の一つです。パジャマ、Tシャツ、ズボンなどが入った袋を受け取った子どもたちは、中身を取り出しては顔を輝かせ、口々に感謝の言葉を述べていました。難民キャンプは、日中は灼熱の太陽に照らされ、夜間は急激に気温が下がるという厳しい沙漠性気候にあるため、彼らの肌と体温を守る衣服は大変重宝されるようです。

また、訪問後に行われたインタビューにおいて清水大使は、子供たちの晴れやかな顔を見ることができ喜ばしい旨述べるとともに、環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ元ケニア副環境・天然資源・野生動物省大臣が環境を守る世界共通語として「MOTTAINAI」の普及を提唱したことに触れつつ、全商品リサイクル活動はまさに、この言葉の体現である旨述べました。



服を受け取る子供たち



感謝の言葉を述べる子供

プレスツアー後、サヘルTVで視察の様子が放映されたほか、首都ヌアクシヨットにおいて開催されたプレスツアー報告記者会見に出席した各紙・テレビにより、続々と我が国開発協力の取り組みが報道されました。多くの国民が目にするテレビ、新聞各紙で大々的に取り上げられることで、モーリタニア国民の我が国開発協力事業への理解もより一層深まったのではないかと思います。

関連リンク（外部サイト）

プレスツアー後にリリースされたウェブ記事（アラビア語・仏語）

・モーリタニア通信（AMI）

（アラビア語）[السفير الياباني يشيد بجهود موريتانيا في مجال مكافحة الفقر ومحاربة الارهاب](#)

（仏語）[L'ambassadeur nippon loue les efforts de la Mauritanie dans la lutte contre la pauvreté et le terrorisme](#)

（邦訳：「日本大使、『貧困との闘い』及び『テロとの闘い』分野におけるモーリタニアの取組を賞賛」

・アル＝アフバール

（アラビア語）[نقطة تفتيش حدودية بفصالة لمحاربة الهجرة السرية](#)

（仏語）[Mauritanie: inauguration d'un nouveau point de passage frontalier](#)

（邦訳：「違法移民との闘いのためのファサラ市国境管理ポスト」

・サハラ・メディア

（アラビア語）[اليابان: ساعدنا موريتانيا بـ53.3 مليون دولار](#)

（邦訳：「日本はモーリタニアに対して5330万ドルを支援」

・ CRIDEM

(仏語) [150.000 dollars du Japon pour un poste transfrontalier à Fassala Néré](#)

(邦訳：) ファサラ・ネレ国境管理ポストに日本の 15 万ドル

(仏語) [Mauritanie: plus de 3000 nouveaux réfugiés maliens à «M'Bèra»](#)

(邦訳：) モーリタニア：ンベラ難民キャンプに 3000 人以上の新たなマリ難民

・ ESSAHRAA

(仏語) [Mauritanie: plus de 3000 nouveaux réfugiés maliens à «M'Bèra»](#)

(邦訳：) モーリタニア：ンベラ難民キャンプに 3000 人以上の新たなマリ難民

・ Le Calame

(仏語) [150.000 dollars du Japon pour un poste transfrontalier à Fassala Néré](#)

(邦訳：) ファサラ・ネレ国境管理ポストに日本の 15 万ドル

(仏語) [Un afflux de plus de 3000 réfugiés à M'Bera depuis septembre](#)

(邦訳：) 9 月以降、ンベラ難民キャンプに 3000 人以上の難民の流入

・ TAQADOUM

(仏語) [Un afflux de plus de 3000 réfugiés à M'Bera depuis septembre](#)

(邦訳：) 9 月以降、ンベラ難民キャンプに 3000 人以上の難民の流入

・ TAHALIL

(仏語) [Arrivée en Mauritanie de nouveaux réfugiés maliens \(humanitaires\)](#)

(邦訳：) モーリタニアに新たなマリ難民の到着

・ Future Afrique

(仏語) [Mauritanie: plus de 3000 nouveaux réfugiés maliens à «M'Bèra»](#)

(邦訳：) モーリタニア：ンベラ難民キャンプに 3000 人以上の新たなマリ難民